

最愛の故郷—西安

発表者：吉川育英会
九州工業大学 梁 一丹

2012.9.6



時を越えた夢の旅—西安へ

- 歴史はかつて無数の輝かしい土地を開拓した；若い都市に、時代の神様は美しい夢を編む
- 西安は、神秘と活気に満ち溢れた街、そこに近寄るあなたはその歴史的な魅力に心を打たれて、ため息をつこうとする。また現代建築からあふれる生氣を感じて更にため息をつくであろう

所在位置



西安は、古くは長安と呼ばれ、イタリアの探検家マルコ・ポーロの名著「東方見聞録」の中で書かれている有名なシルクロードの出発点の街である



- ・ 六、七千年前の新石器時代、中国母系の氏族グループがここを繁栄させた



- 西安は都市の歴史を建ててもう3100年あまりがある。歴史上、先周、秦、唐、明など12の王朝がここに都を作り、1100年ぐらい全国の経済と政治の中心だった
- 地理的にも「中央の国」と意味を持ち、経済的に一番盛んでいた唐朝時期では、人口百万を越えた国際大都市であった。「東にローマがあって、西に長安がある」との諺も当時世界での位置づけを表した

- 「世界第八番目奇跡」の秦始皇帝の陵は1987年により、ユネスコで世界遺産の名簿に取り上げられた世界文化遺跡である。秦時代、74万の懲役者に38年間かけて、中に8000個の陶窯武士、500台の実戦用馬車、若干兵器が近衛軍団として始皇帝の遺体を守る態勢で作られた。

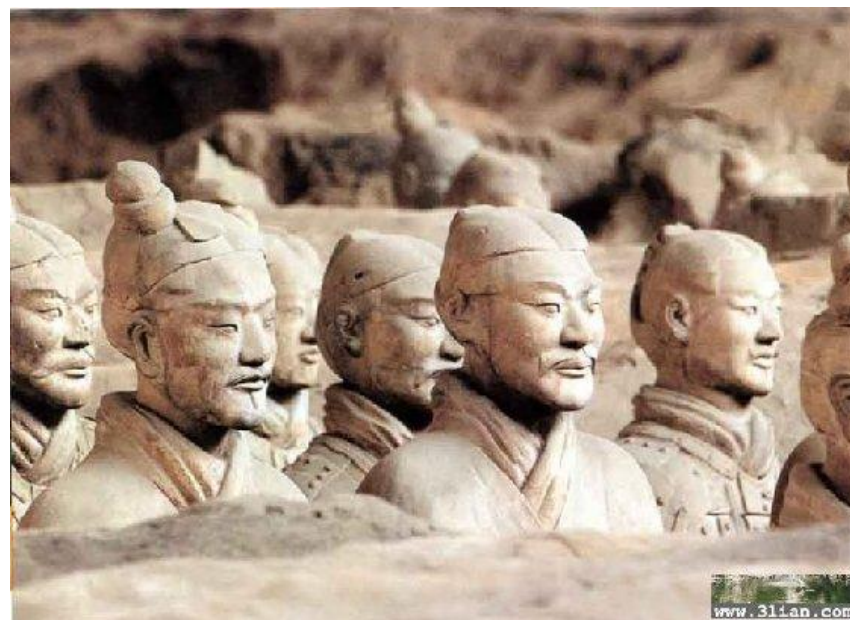
総面積22.780m²





2005 7 8

陶窯されていた武士たちは、人々の表情が違っていて、
軍団全体的に出来具合もかなり高水準だった



- 明朝時代の城壁は今でも世界で一番完備で、規模が巨大なため大事に保存されている



そして、同じ時代の朱元璋皇帝が、各地に自分の地位を奪うライバルが現れることを恐れて、城内中心に鐘楼を修築と命じて、龍の気を鎮めようとしたのだった



- 西安が二回目輝いた時代は唐朝だった。仏教が盛んでいた印としては、大雁塔という西暦652年に建てられた高さ64メートルのタワーである。その特徴は煉瓦で木造の斗組の風格を表すことにある



唐四大美人の一人の楊貴妃さんは、皇帝の寵愛を収め、個人専用の豪華温泉が作られた。その敷地面積は85.560㎡ある



- 現在の西安は、機械、電子、航空事業、軽工業を主とする500位の科学研究機構、40軒の国立大学を持ち、活発しているところである



民間で流行っている文化と言ったら、「秦腔」と「安塞腰鼓」は代表になる





「安塞腰鼓」



- 注釈

1.ユネスコ(国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.)は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。